科目ナンバリング	U-LAS04 20013 LJ46						
授業科目名<英訳>	関係発達論II Relationship Development II			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授	大倉　得史	
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	教育・心理・社会(各論)	使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	金2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

周囲他者や社会・文化的状況との関係性から人間の形成過程を理解しようとする関係発達論の立場から、主として乳幼児期の「子ども-養育者」関係の発達過程を明らかにする。現在の自分がどのようにして形作られてきたのかを知ると同時に、「育てる者」になっていく上での実践的知識を身につける。

[到達目標]

育てられる者が育てる者になっていくプロセスを理解し、自らがいかなる「育てる者」になっていくかを自覚的に考えることができる。
「～できる」ことばかりを人間の発達ととらえる個体能力論的枠組みを相対化し、人としての心を育んでいくことの重要性を理解できる。

[授業計画と内容]

以下の各テーマにつき、1テーマあたり1～2週をかけて授業をしていく予定である。

1．関係発達論という考え方（第1～2回）
2．出産・子育てをめぐる社会状況と若者の意識（第3回）
3．妊娠・出産をめぐる女性の心理（第4回）
4．誕生から生後3ヶ月の「子ども-養育者」関係（第5～6回）
5．生後4ヶ月から1才までの「子ども-養育者」関係（第7～8回）
6．1才代の「子ども-養育者」関係（第9～10回）
7．2才から3才にかけての「子ども-養育者」関係（第11～12回）
8．保育の場における諸問題（第13～14回）
9．フィードバック（第15回）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末レポート（1回）、授業内の小課題。配点比は60：40程度。

[教科書]

大倉得史『育てる者への発達心理学』（ナカニシヤ出版）ISBN:9784779505898

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書を読んで予習、復習をしておくこと。

[その他（オフィスアワー等）]

教室定員を超える受講希望者が出た場合、抽選を行う。グループワークを多用するので、積極的に発言すること。

[主要授業科目（学部・学科名）]

総合人間学部